

## 平成 30 年度大学院共通科目「国際インターンシップ」公開報告書

人間総合科学研究科 スポーツ国際開発学共同専攻  
修士課程 2 年 下窪拓也

1. 課題名「スポーツを通じたコミュニティ間における平和的關係性構築の実現にむけたプロジェクト Inter-community Sports Exchange Program, Peace Village の実施と社会的影響調査」

### 2. 背景と目的

多民族、多宗教が混在する島国スリランカでは、スリランカ政府とタミル族の過激派、タミル・イーラム解放のトラ(LTTE)との間で 2010 年まで 30 年近くにわたる内戦が繰り返されてきた。現在この内戦は終息し和解段階に入っている。しかしながら、昨今、新たな衝突の危機に瀕している。2010 年以降、仏教徒とイスラム教徒の過激派がスリランカ各地で衝突を繰り返しており、2018 年 3 月には仏教徒とイスラム教徒が衝突し、非常事態宣言が出され、同年 5 月、スリランカ大統領はパブリックスピーチにおいて、コミュニティ間の関係性の正しい理解が必要であると訴えた。

このような社会問題の解決を図るため、Asian German Sports Exchange Programme (AGSEP)は、コミュニティ間の平和的關係性構築を目指した、スポーツ交流イベントプロジェクトを実施している。本団体は、過去の内戦時にも、タミル族とシンハラ族との交流イベントプロジェクトを行ってきた。しかし、イスラム教徒コミュニティを巻き込んだプロジェクトは、今回が初であり、宗教間での関係性の実態を探る調査を含めた、プロジェクトのスタートアップが当面の課題とされている。

### 3. 実施内容

#### ・宗教間関係の調査

プロジェクトを開始するに当たり、スリランカの現状を確認するため、ニュース、学術紙、研究論文、並びに、地域住民への聞き込みなどのフィールドワークを行い、情報収集を行った。

#### ・イベントの企画、運営

スポーツイベントで必要となる施設、用具の手配、イベントの告知、イベント当日の運営、そして、ソーシャルメディアを通じた情報の拡散を行った。

#### ・イベントの社会的影響評価

イベントの成果を図るため、学術的知見を用いた評価調査を行った。

#### 4.成果

現在のスリランカ国内における、仏教徒とイスラム教徒の関係性を調べたところ、宗教間の衝突の情報は、メディアや政府の報道によって誇張されていることが分かった。さらに、仏教徒政党が行っているアンチイスラム教のプロパガンダ、そして、悪意ある偽の情報や宗教間対立に関するうわさが、人びとの恐怖心をあおり、暴力的行為を誘発していることが明らかとなった。AGSEPは、蔓延する脅威を解消するため、スポーツを通じた交流イベントを開催することを決定した。さらに、仏教徒コミュニティとイスラム教徒コミュニティの交流スポーツイベントを、ソーシャルメディアで告知することで、社会的影響を拡大できると考え、ソーシャルメディアを通じた情報戦略に力を入れることを決定した。

交流イベントプロジェクトの最初のイベントは、AGSEPが拠点を構えるMarawila付近の仏教徒、キリスト教徒、そしてイスラム教徒のコミュニティを招待し行った。さらに、来賓として各宗教の僧侶や、当州の大臣もイベントに招くことに成功した。当初の予定では、毎月一度イベントを開催する予定だったが、台風の影響や、連携を依頼していた外部協力者との連絡が途絶えるというアクシデントにより、イベントを中止せざるを得ない状況が数度起こったため、4月から7月のインターンシップ期間中では、イベントの開催は二度のみとなった。イベントの内容は、一度の目のイベントでは、シンハラ人の伝統的な新年に行う遊びにちなんだゲームを、二度目のイベントでは、各コミュニティで人気の高いクリケットを行った。

イベントの成果を図るため、イベント終了後、参加者を対象に異なる宗教の人々への意識、およびイベントの内容に関する意識調査を行った。概ね、参加者は、宗教に関係なく、多宗教の人々にも良好な態度を示していたおりイベントは成功に終わったと言えるだろう。しかし、宗教間の考え方や文化の違いにより、イベント中子供たちが気まずさを感じているような場面も見られるなど、課題も多く挙げられた。

さらに、本プロジェクトの成果として、スポーツイベントを通じたコミュニティ間の交流の場を提供するほかに、社会の中でスポーツイベントが担う重要な役割についても可能性を見出したことが挙げられる。イベントの参加者に対する調査では、概ね、宗教間関係性に対する意識は良好なものであったが、このことは、他宗教に対して良好なイメージを持っている人のみがイベントに協力的であったと言えるかもしれない。実際に、イベントへの参加を断ったコミュニティもいくつかあり、そういったコミュニティに所属する人々は、イベントに参加した人々よりも、現在の宗教間関係性に対してネガティブなイメージを抱いている可能性が高いだろう。以上のことから、本イベントが、コミュニティにおける宗教間関係性を測るうえでの重要な指針として機能すると言えるだろう。

本プロジェクトは、未だ立ち上がりの段階であり、今後さらに発展していく可能性が大いにあるだろう。今後は、大臣や各宗教の僧侶たちにも協力を依頼し、さらに規模を拡大してイベントを開催していくことが期待される。



(一回目、New Year Game Event での写真)



(二回目、Cricket Match での写真)